

## 今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇第9回塩ビフォーラムを開催

■ [随想](#)

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(30)

木下 清隆

■ [編集後記](#)

## ■ トピックス

## ◇第9回塩ビフォーラムを開催

12月1日、第9回「塩ビフォーラム」を(一社)近畿化学協会との共催により開催しましたので概要をご紹介したいと思います。その前に塩ビフォーラム開催の経緯について簡単にご紹介します。

塩ビは汎用樹脂中で最も古くから使われており、約70年前に日本でも工業化が始まりました。その後、多くの企業が塩ビ事業に参入することとなりますが、それを支えたのが先達の技術者たちで、切磋琢磨しより良い技術を開発し人々の暮らしを豊かにする製品を世の中に送り出してきました。その技術者たちの技術交流の場として毎年12月に「塩ビ討論会」が近畿化学協会(大阪)で開催されることとなったのが戦後間もなくの1940年代後半、その後、約60年に亘り社会の発展、塩ビ産業の発展に寄与してきました。しかしながら、2000年前後の環境問題や日本経済の低迷を境に塩ビの需要が減少、それに伴い業界の再編・事業撤退等を余儀なくされ、多くの技術者が配置転換等となり塩ビの研究・技術者が減少し、「塩ビ討論会」も年々規模が縮小する状況となり、そのような中、2009年、「塩ビ討論会」改め「塩ビフォーラム」として新たな一步を踏み出し現在に至っています。「塩ビフォーラム」は「塩ビによるものづくりの火を灯し続け社会に貢献すること」を趣旨としています。

塩ビは建築材料、農業資材、工場設備、車両、日用品等多くの分野でご利用頂いています。塩ビ産業の更なる発展、社会貢献のためには夫々の分野におけるニーズを的確に把握するとともに新たな分野への発展を模索することも必要です。「塩ビフォーラム」は、異業種の方のお話や時世を反映したお話を伺い、今後の技術開発や製品開発のヒントを頂く場と位置付けています。

このような背景の下に今回は以下の演題で講演をしていただきました。

- ・大庭塾代表の大庭俊之氏(元日産自動車(株))による「自動車用プラスチックの動向と期待」
- ・(一社)産業環境管理協会の佐竹一基氏・菊池英明氏による「製品含有化学物質情報伝達共通様式「chemSHERPA」」

まず、大庭氏のご講演の概要についてご紹介します。

『自動車はライフサイクルにおいて「足跡を残さない」が理想、その為には温暖化防止(燃費改善によるCO2排出抑制)、資源循環(リサイクル)が重要であり、その方向に向かって多くの試みが行われている。世界はガソリン車から電気自動車にシフトしつつあるがバッテリー容量、燃費向上等の課題がある。燃費の向上では軽量化や熱の制御が大きな課題。軽量化は高張力鋼板の採用拡大、アルミやマグネシウム等軽金属の適用、構造部品の樹脂化などが行われている。高分子材料は軽量化の方策の大きな方向で、成形性を生かした部品の統合化や接着技術を活かした材料の複合化が高分子材料採用の鍵となってくる。CFRPは軽量化、強度等多くのメリットがあるがコスト面での課題があり万能ではない。

塩ビは残念ながら1990年代～2000年の環境問題報道により「環境に悪い」というイメージが植え付けられてしまった。環境に悪いものではないとしてもお客様が悪いものだと思うものは使いづらい。ということで塩ビ離れが進んだという経緯があり、未だにその影響はあると考えている。しかしながら、塩ビは難燃性により電気関係(ハーネス)では必須であるとともに、物性や加工性等で優れた特性を有しておりそのメリットを活かせれば新たな採用の可能性はある。高分子材料には機能材料としての期待が大きく、材料そのものの特性に加え、他素材との組合せで機能を発揮できること、そして信頼性とコストの両立が求められている。』

続いて、佐竹氏、菊池氏のご講演の概要についてご紹介します。

『欧州のREACHをはじめ世界各国で製品含有化学物質の規制が強化されてきており、規制への対応は経営問題に直結する話となってきている。環境や人健康へ一定の影響を及ぼす化学物質に関しては適切な管理の下に使用する必要があり、且つ適切な管理がなされるためには川上から川下に至るサプライチェーン全体で管理を行う必要があり、その範囲は国内だけでなく世界全域に及んできている。このような状況下、サプライチェーン全体の効率化、ひいては製品の国際競争力の強化に資するためのツールとして、経済産業省により「製品含有化学物質情報伝達 共通様式「chemSHERPA」」が開発され2015年10月より運用が始まった。

chemSHERPAは、電気電子分野の国際規格であるIEC62474に準拠した共通様式であり、電気電子業界ではサプライチェーンを含め本共通様式を用いた情報伝達に移行中である。適切な管理が必要な物質は時代とともに変化するため適宜見直しをしながら、川上、川中、川下で必要な情報を的確に伝達することが重要であるが、同時に要するマンパワーや経費も考慮する必要があり、できるだけ簡易な作業で伝達が可能になるよう、コストパフォーマンスにも心がけて開発を行った。今後はアジア諸国の法規制や電気電子、自動車業界以外の業界基準も取り込むことを視野に入れている。塩ビ関連も可塑剤をはじめ適切な管理が求められる物質があり、今後とも本システムへの協賛等ご協力をお願いしたい。』

当日は約60名の方の参加をいただき、大変盛況な会となりました。

塩ビ業界は化学産業の一員として、今後とも化学物質の適切な管理を通じ環境や人健康影響のリスクの最小化に心がけるとともに世の中のニーズに合った製品開発を通じ社会貢献ができることを願い、塩ビフォーラムの概要紹介とさせていただきます。

最後になってしまいましたが、講師の皆様にはお忙しい中、貴重なご講演を頂きましたことに改めて感謝致します。

## ◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(30)

木下 清隆

&lt;前回とのつながり&gt;

前回までに、伊勢の榎田神社関係の諸問題を論じ終わったので、今回から、博多の榎田神社問題に移ることにする。ここでの主要事項は、伊勢の大若子命がなぜ博多で祭祀されるようになったのか、その時期は何時なのか、といった問題である。ところがこのような問題にいきなり入っても、その時代背景が頭に入っていないと、理解は難しいので、最初に博多の古代史を簡単に整理することにする。

## 第三章 博多の榎田神社

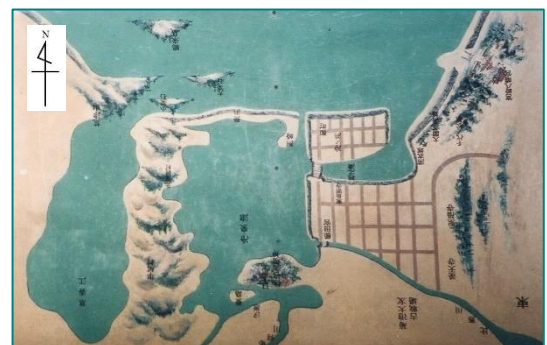
## 1 博多の歴史

これから博多の榎田神社の話に入るが、その前に博多の古代史について簡単に触れておくことにする。榎田神社が創建された頃の時代背景を分り易くするためにである。

古代博多の名称は奴国と謂われていたらしく、その中心は現在の春日市須玖遺跡群一帯とされている。この時代、倭国の中心勢力は、奴国と伊都国の連合体であったとされていることから、この時代以降を博多の古代とするなら、この時期はその特徴によって大きく三つの時代に区分することが出来よう。即ち、「那津時代」、「荒津時代」、「袖の湊時代」である。このような時代区分は古代史的に用いられているものではないが、博多古代史を語るときの各時代のイメージを、ある程度明確にすることができるという意味で、有用と云えよう。

「那津時代」の名称は、宣化天皇元年（五三六）に「<sup>なのつのみやけ</sup>那津宮家」が設置されと書紀に出ていることに由来している。この当時、既に那津が一般的に知られていたことを示しているといえよう。那津時代は、奴国が半島や中国大陆を相手に、交易或いは外交のためにこの港を利用し始めた時代、即ち西暦一世紀前後をそのスタートと考えることにしよう。この那津時代は朝鮮半島への出兵、半島を中心とした外交使節の往来、遣随使（第一回 六〇〇年）、遣唐使（第一回 六三〇年）等の大陸への往来、更には半島から鉄や銅を始めとする多くの物資が輸入された時代である。これらが全て那津を中心として行なわれたとは考えられないが、それでもその賑わいはかなりのものであったと想定される。

この那津の場所は明確には判かっていないようであるが、古代博多の地図を見ると、博多には冷泉津と草香江の大きな二つの入江があるところから、那津は冷泉津の古名ではないかと考えられている。そうであれば、かつての長浜が大きな堤防のように東西に張り出し、その南側が大きな入江となっていることから、那珂川以西の天神を中心とした福岡市の主要部が、かつては全部冷泉津に含まれていたことになる。要するに現在の福岡港よりかなり陸側に入った辺りまでが那津だったことになる。



博多古図【拡大】  
(住吉神社蔵絵馬復元図)

那津宮家が設置された頃の倭国は、半島での足場を徐々に失いつつあった時代であり、この約百三十年後には全てを失うことになる。この宮家の跡は、現在の博多駅南五丁目辺りに大きな遺構が出土したことから、これではないかと見られている。「みやけ」は屯倉と書くのが一般的であり、これが朝廷の直轄領であることを示しているのに対し、那津宮家は更に朝鮮出兵の兵站基地の機能も兼ね備えていたとみられる点で、特異な存在であった。筑紫国造磐井による乱が起きたのが継体天皇二十一年（五二七）のことであるから、宮家が設置されたのはその十年ほど後だったことになる。

那津時代の終りを何時頃と見るべきかであるが、それは那津宮家が太宰府として、現在の太宰府都府楼跡地に移設されたと考えられている七世紀後葉としたい。このように考えると、那津時代は奴国時代から約七百年間続いたことになる。太宰府に関しては、この宮家から発展していったとの説と、そうではないとの説に分かれているようであるが、ここでは前者の立場を採っている。

「筑紫大宰」なる官名は、『日本書紀』の推古天皇十七年（六〇九）四月条に初めて現われ、「筑紫大宰、奏上して言さく、……」と記録されている。この場合の「筑紫大宰」の読み方として、『日本古典文学大系、岩波』では「つくしのおほみこともちのつかさ」と読ませている。この筑紫大宰は地方行政長官として筑前国を管轄していたが、その出発が那津官家であることから、外交問題が当初の主要任務であり、その後、国防に関する任務がこれに加えられたようだ。地方官というより中央の出先機関の性格が強く、大きな権限を有していたとされている。

なお、「太宰府」と「太」の字を用いる場合は天満宮或いは地名を表わすよう使い分けられている。また大宝令（七〇一）の施行後、太宰府の長官は大宰帥そちと呼ばれるようになった。以下、大宰大貳だいに、少貳、大監・少監、大典・少典等が置かれた。

筑紫大宰府は先に触れたように、当初那津に面したところに設置されていたが、その後、現在の都府楼跡地に移設された。理由は日本が白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗れたからである。六一八年に中国を統一した唐が、新羅と結んで高句麗を攻め、更に百済を滅ぼそうとしていた。そして終に六六〇年、唐の水軍と新羅の陸軍に攻められて百済は滅亡する。遺臣達は百済の再興を図るために日本に救援を求める。既に任那を失っている日本軍は重大なる決意をもって援軍を出した。

しかし、白村江河口で唐の水軍に大敗し、その岸上においては新羅軍に破られる。派遣した兵士は三万人以上、船は約一千艘、白村江で火攻めにされ、焼かれた船は四〇〇艘に上るといふ。これで日本は朝鮮半島との関係が全て失なわれてしまうことになった。天智二年（六六三）のことである。敗れた日本は、今度は唐・新羅連合軍による本土攻撃を恐れ、これに備えなければならなくなった。鎌倉時代の文永・弘安の役の六百年も前のことである。



大宰府址（都府楼跡地）



現在の太宰府天満宮（菅原道真の墓所）



その対策の第一が、筑紫大宰府の移設であり、第二が、その組織・機能を守るための水城の建設であった。更に、対馬、壱岐、筑紫に防人を置き、烽（のろし）を備えた。水城は総延長一・二km、高さ約一三m、基底部幅約八十mの長大な土塁である。その機能については、初め、大宰府側に貯水するとの説もあったが、一九七五年の発掘で博多側に幅六十mの



復元された元寇防塁

濠が設けられていたことがわかり、これが外堀の役割を果たすことがわかった。外堀には土塁を貫いた木樋を使って大宰府側から水を流し込むようになっていた。従って、この水城は積水を切って戦うと言ったイメージとは全く異なる要塞だったことになる。

なお、ついでに触れておけば、鎌倉時代の元軍の侵攻に対する備えについては、元寇防塁が構築された。これは博多湾一帯に築造されたものであるが、現在においては殆どが崩壊してしまっている。ただ、生の松原に設置されたものについては、一九六八年に、五十mほどが復元されており、昔の面影が偲ばれる。



観世音寺と国宝の梵鐘

(天智天皇が母である斉明天皇の菩提を弔うため  
発願したと伝えられている)



那津時代を締めくくるのは斉明天皇である。斉明七年(六六一)に天皇が白村江に出兵のために、この地に下向したとき、那津を「長津」に改めたとの記録が残されている。この後、日本軍は白村江で敗れ、まもなく大宰府が現在の都府楼駅付近に移されることになる。その意味でこの改名は、那津時代の終焉を予告するものであったといえよう。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いです。>> [\(筆者\)](#)  
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

PVC Design Award2017 の展示会が 11 月 16 日から 11 月 26 日まで東京丸の内 GOOD DESIGN Marunouchi で開催され、約 4000 名の方に来場いただきました。

来年 1 月には大阪と名古屋で展示会を開催する予定です。是非、足をお運びいただき、受賞作品、デザイン提案・マッチング作品などご覧いただければと存じます。

・大阪展示会

日時：2018年1月23日（火）12：00～17：00  
1月24日（水）10：00～16：00

場所：[メルカート会館](#) 4F 大ホール  
大阪府東大阪市長田中 2-3-14

・名古屋展示会

日時：2018年1月26日（金）10：00～18：00  
1月27日（土）10：00～16：00

場所：[クリエイティブビジネススペースコード](#)（ナディアパーク 4F）  
名古屋市中区栄 3-18-1

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---

---